

平成 25 年度 春の特別展 企画書

1. テーマ

「色定法師と日宋貿易」展

2. 目的

宗像大社の社僧であった色定法師の偉業を紹介すると共に、偉業達成に深く関った日宋貿易に着目し、中世宗像の活潑な海外との交易の様子を紹介する。この展示を通し、宗像において活躍した偉人や中世の交易、歴史的な背景を周知するものである。また、宗像大社神宝館との連携をはかり、互いの来館者の獲得、増進を目指すとともに連携の強化を図るものである。

3. 展示内容

五千巻を超える経巻を一人で写経するといった偉業を成し遂げ、1242年に没した「色定法師」の木造色定法師坐像などを展示し紹介する。また、色定法師を援助し一筆一切経の達成に大いに関った博多商人たちが活躍した日宋貿易の様子を遺跡の出土遺物等を展示し紹介する。

○ 色定法師 (しきじょうほうし)

宗像大社の座主(ぞす、社僧の首席僧)兼祐(けんゆう)の子として保元3年(1158年)に生まれる。晩年には父と同じく座主を務め、仁治3年(1242年)享年84歳でなく亡くなっている。名は良祐(りょうゆう)、経祐(きょうゆう)、栄祐(えいゆう)の順に変え、晩年に色定に改めている。国家平和、社内の人々の安寧や父母兄弟の長寿などを願い、一切経(全ての仏教経典)を一人(一筆)で書き写すことを、文治3年(1187年)4月29歳のときに発願し、42年の歳月をかけ安貞2年(1228年)70歳のときに五千巻を超える写経を終えている。他に一切経写経を行った僧はいるが多くの資力と人力を動員したものであり、色定法師がこれを単身で成し遂げていることは脅威である。

○ 日宋貿易 (にっそうぼうえき)

10世紀から13世紀にかけて日本と中国(宋)との間で行われた貿易。13世紀には毎年40~50隻の日本船が渡っている。日本からの輸出品は金、砂金、真珠のほか12世紀前半からは松、杉、檜、蒔絵、刀剣類なども輸出されるようになる。宋からの輸入品は綿、綾、絹、茶類、12世紀中頃からは銅銭の輸入が始まっている。宋では銅銭の輸出を禁じていたが、金、真珠、硫黄などの日本からの輸入品の支払いに銅銭を当てていたため、日本に多くの宋銭が輸入されることとなった。12世紀には、多くの宋の商人が住み活躍した博多津が拠点となり、色定法師の一筆一切経の巻末に見られる「張成(ちょうせい)」「李栄(りえい)」も博多津を拠点に活躍した宋人綱首(そうじんごうしゅ)である。

4. 展示場所

「海の道むなかた館」常設展示室企画展示コーナー及び特別展示室

※ 関連展示として、「宗像大社神宝館」3階展示室 を紹介

5. 展示期間

平成25年4月23日(火)～平成25年7月7日(日) 76日間(休館日含む)

6. 展示資料

- 木造色定法師坐像・附色定法師画像(興聖寺所有・宗像大社保管)
- 一筆一切経(興聖寺所有)
- 博多遺跡群出土遺物(福岡市埋蔵文化財センター)
- 在自唐坊跡(福津市教育委員会)

7. 資料借用機関

- 宗像大社
- 興聖寺
- 福岡市埋蔵文化財センター
- 福岡市博物館
- 福津市教育委員会

8. 資料借用期間

平成25年4月16日(火)～平成25年7月14日(金) 90日間

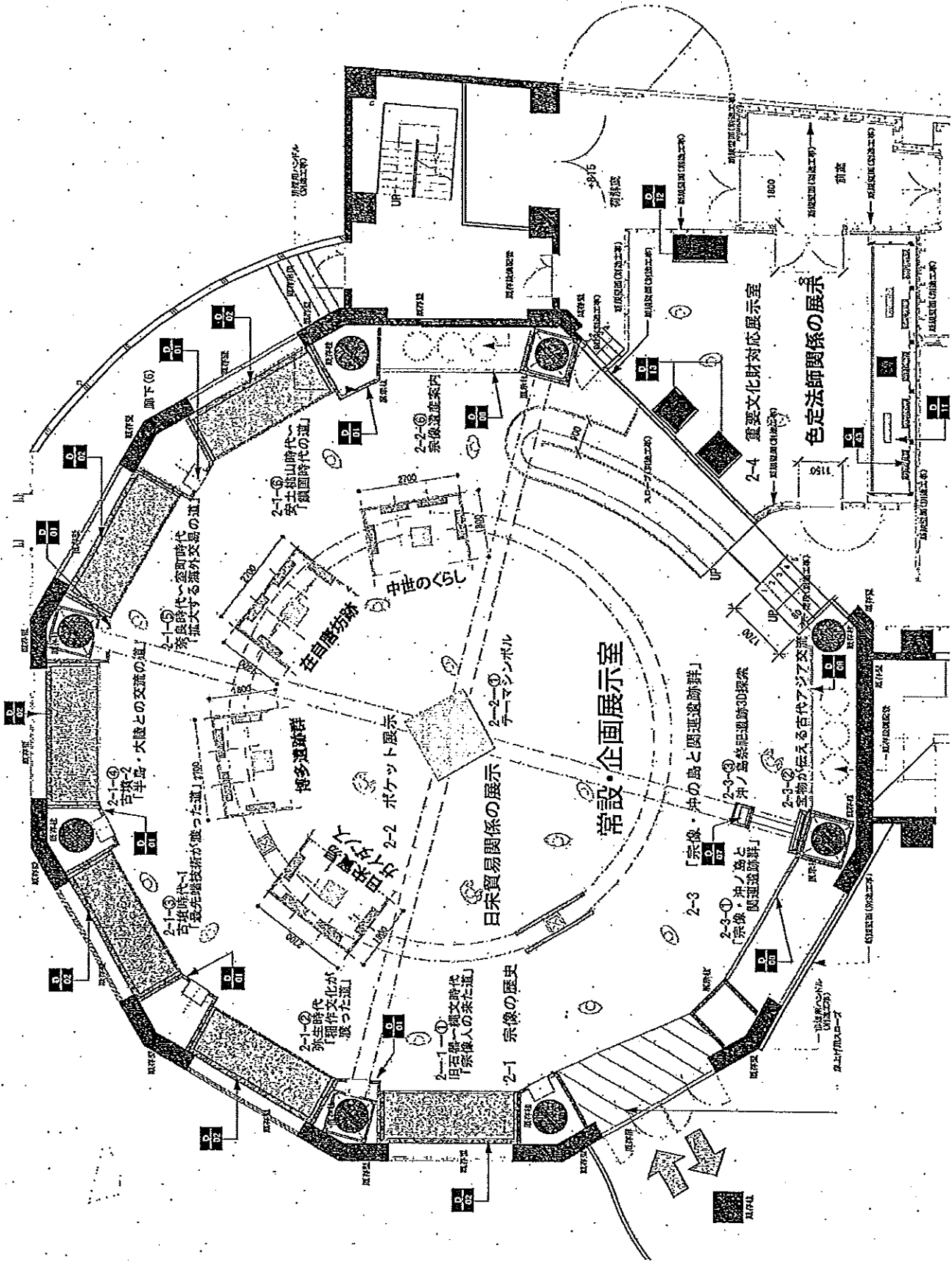
9. 関連イベント

ア) 講演

- 吉永正春 「宗像氏貞とその時代」(4月28日)
- 西谷 正 「色定法師の偉業と日宋貿易」(4月29日)

イ) ガイドツアー

- 「海の道むなかた館」から「宗像大社神宝館」、「興聖寺」を巡るガイドツアーを実施する(ガイドは歴史観光ボランティアに依頼)。



平成25年度 海の道むなかた館 春季特別展示「色定法師と日宋貿易」展 展示平面図

会期：平成25年4月23日～7月7日